

山形でこんなことをやってみたい!



山形の未来を考えよう!

暮らしやすい
山形はこんな
ところ!



山形県 子ども会議

YAMAGATA KODOMO MEETING

報告書

こんな取組み
あったらいいな!



これからの山形は
どうなればいいだろう?



こども会議でいただいた意見はすべて、
「山形県こども・子育て笑顔プラン」に反映できるかどうか検討しました。
記載に結びつかなかったものも、参考にさせていただきます。



こども会議でみなさんからもらった意見

似ている意見をまとめる

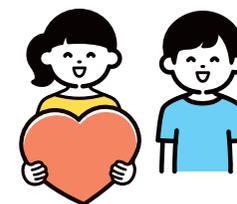
「山形県こども・子育て笑顔プラン」の基本の柱ごとに分類

プランに書いたもの

プランに書かなかったけれども参考にしたもの

「山形県こども・子育て笑顔プラン」はこども基本法に基づく都道府県こども計画の名称です。
山形県で暮らす全てのこども・若者や子育て当事者が将来にわたり笑顔で幸せな生活を送ることができる社会の実現を目指してこの名称にしました。

1 郷土愛を持ち 健やかに成長するために



こども会議の意見

こどもの権利について

- こどもたちが自分らしくいられて幸せになるため、学校や家庭、地域社会でこどもの個性が認められ、こどもの権利と主体性が尊重されることが大切である

教育について

- 「STEAM教育」という主体性のある教育を受けていたら、山形に対する思いも強くなり、山形の課題解決について行動したり起業したりする人が増えるかもしれないから、小学校からこどもの主体性を育む教育が受けられるようにしてほしい

こどもの居場所について

- こどもが楽しめる施設があったほうがいい
- 娯楽や憩いの場や交流の場が少ないので、スポーツを楽しめる場所や交流の場を増やしてほしい
- 休日や長期休暇、今まで部活をしていた時間に過ごせる“中学生の居場所”となる施設を作してほしい
- 地域のサポートが充実し、こども一人ひとりに居場所があると感ぜられる街になればいい
- 声を出して話しながら勉強できるような学校の総合学習をするスペースがあればいい
- 共働き世帯が多く、放課後ひとりで居ることが多いので、こどもが孤立しないようこども同士の新しい交流の場となるような学校以外の居場所を作ることが必要だと思う

政策形成へのこども・若者、子育て当事者の参画について

- こどもを支えるおとなが幸せになることが必要だから、「山形県おとな会議」もした方がいい
- 学生と行政がもっと身近になることが必要だから、行政を交えた意見交換の場を年に数回設ければいい

山形県こども・子育て笑顔プランに書いたこと

基本の柱1 推進方策(1) P54

▶ プランに、こどもの権利と主体性が尊重される大切さについて、次のとおり書き、取組みを進めていきます。「全てのこども・若者は、生まれながらに権利の主体であり、その多様な個性を尊重し、こども・若者にとっての最善の利益を優先して考慮します。さらに、こども・若者の権利について、こども・若者や子育て当事者、教育・保育に携わる者をはじめとするおとなへ広く周知し、社会全体で共有します。」

基本の柱1 推進方策(3) 事業展開② P61

▶ プランに位置づけ、多様な知を持ち寄って課題解決を図るSTEAM教育の充実について取組みを進めていきます。

基本の柱1 推進方策(4) 事業展開① P62

▶ プランに位置づけ、国の「こどもの居場所づくりに関する指針」に基づき、様々な学びや社会で生き抜く力を得るための糧となるような多様な体験活動や外遊びの機会に接することができ、自己肯定感や自己有用感を高め、将来にわたってウェルビーイングで成長できるよう多様なこども・若者の声を聴きながら、安心して過ごすことのできる居場所づくりを推進していきます。

山形県こども・子育て笑顔プランに書いていないが、取り組むこと

▶ 子育て当事者等おとなの意見聴取にも引き続きしっかりと取り組んでいきます。

2 若者が山形で夢と希望を叶えるために



こども会議の意見

若者の県内回帰について

- 県外への就職や進学を希望する人も多いが、県外に行くからといって二度と山形に戻ってこないというわけではなく、いずれは山形に戻ってくることを前提に県外に出る人も多いという現状をもっと知ってほしい
- 山形から1回離れたが戻ってきた人や、県外から山形に来てくれた人への支援をするといい

若者の就業について

- 高校や大学を卒業した人が、「山形のここで働きたい」と思えるような会社があればいい
- 大人になったときに魅力的な職業があればいい

若者の収入について

- どんな仕事でもある程度の収入を得られることが大切だと思う

山形の魅力発信について

- 山形県の魅力をさらに増やしていくことで、山形に住み続けようと思う人が増えると思う
- 自然豊かな観光スポットや農業など、山形の強みを明確にして、山形にくる目的をつくるため、県の魅力を発信し「山形と言ったら○○」という印象を与えることが重要
- 若い人は新しい、流行のものが好きだから、ユニークなもの、新鮮なものがほしい

学びの場について

- 県内で自分の好きなことが学べるよう専門学校を増やしたらいいと思う

山形県こども・子育て笑顔プランに書いたこと

基本の柱2 推進方策(1) 事業展開① P66

▶ プランに位置づけ、進学等により県外に在住している若者に対する就職相談、無料職業紹介、県内企業情報の提供等県内企業を知る機会の拡大や、大学等を卒業後、県内で就業・定住する若者を対象とした奨学金の返還支援等、若者の県内回帰・定着を促進していきます。

基本の柱2 推進方策(1) 事業展開①、② P66

▶ プランに位置づけ、県内産業や企業に関する情報発信を強化するとともに、次代の担い手育成に向けて学校や大学、企業と連携を強化し、職場体験やインターシップを推進していきます。

基本の柱2 推進方策(1) P66

▶ プランに若者の所得向上について、次のとおり書き、取組みを進めていきます。「将来を担う若者が意欲と能力を十分に発揮しながら安心して働くことができる雇用環境の確保を図ります。」

基本の柱2 推進方策(2) 事業展開② P74

▶ 山形の魅力を若者にしっかり伝えるため、若者による山形での多様な働き方や山形暮らしの魅力を発信することに取り組んでいきます。

山形県こども・子育て笑顔プランに書いていないが、取り組むこと

▶ 専門学校の設置について記載することは難しいのですが、県外で学ぶ学生が山形県に戻り、定着してくれるような支援に取り組んでいきます。

3 安心して山形でこどもを生き育てるために



こども会議の意見

子育てしやすい環境づくりについて

- 住んでいるところには小児科がないため、病気にかかると遠くの病院に行くのに時間がかかって大変なので、身近に病院があればいい
- こどもが幸せになるには、親の生活が安定し、心にゆとりを持てるようにすることが必要だと思う
- 子育てしやすい環境づくりには、保育所や幼稚園、放課後児童クラブの数と預かり時間を増やし、料金を安くする必要があると思う

山形県こども・子育て笑顔プランに書いたこと

基本の柱3 推進方策(2) 事業展開② P87

病院の設置は難しいですが、いつでも保護者の不安を解消できるよう小児救急電話相談を実施したり、ガイドブック等を活用した小児救急医療に関する知識の普及啓発を図っていきます。

基本の柱3 推進方策(4) 事業展開① P95

子育てや教育に係る経済的負担の軽減において、子育てにおける負担感の要因である医療費や教育費等について、子育て家庭に対し経済的な支援を行っていきます。



4 困難を有するこども・若者とその家族が未来を切り拓くために

こども会議の意見

ひとり親家庭への支援について

- ひとり親家庭への生活支援を増やし、生活に困らない家庭を増やしたい
- 「貧困」から「虐待」に至るケースがあると思うので、生活に最低限必要なものを必要な、審査に通った人に支給するシステムがあればいい



- ひとり親家庭に向けて行っている支援を広めて知ってもらい、活用してもらいやすくすればいい

- ひとり親の場合は、子育てについて電話で気軽に相談できる窓口があったらいい
- 地域で利用できる育児支援やカウンセリングを電話、対面での相談だけでなく、匿名でできるチャットなども作るといい

- 虐待や貧困に苦しむこどもを救うため、まだ食べられるのに捨ててしまうものや余った食材などを使った料理を一緒に食べる機会があるといい

虐待防止のための周知啓発について

- 親や学校だけでなく、地域で児童虐待に関する理解を深めることが必要だと思う

山形県こども・子育て笑顔プランに書いたこと

基本の柱4 推進方策(1)(2) P100~109

こどもの現在と将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう貧困を解消し、地域や社会全体で世代を超えた貧困の連鎖を断ち切るという認識の下、教育の支援、生活の安定に資するための支援、保護者の就労の支援、経済的支援をすすめて全てのこどもたちが夢と希望を持って成長していける環境づくりを推進します。また、子育てと生計の担い手という役割を1人で担っているひとり親が安心して子育てしながら生活することができるよう支援の充実を図っていきます。

基本の柱4 推進方策(2) 事業展開① P106

ひとり親家庭への支援施策の周知について、ひとり親福祉制度をまとめた「ひとり親福祉のしおり」を作成し、関係機関や市町村と連携して児童扶養手当受給者に配布したり、やまがた子育て応援サイト等を活用し積極的に支援情報を発信するなど取組みを強化していきます。

基本の柱4 推進方策(2) 事業展開① P106

ひとり親家庭からワンストップで相談を受ける「ひとり親家庭応援センター」の機能の充実を図るとともに、メール、オンライン、SNS等の活用による多様な相談支援体制の構築を行っていきます。

基本の柱4 推進方策(1) 事業展開① P101

こどもの居場所の一つである、こども食堂の取組みが県内全域に広がるよう、こどもの居場所づくりサポートセンターを設置し支援していきます。

基本の柱4 推進方策(3) 事業展開① P110

関係機関と連携した虐待防止に関する啓発の強化や、虐待の発生予防に向けた市町村や地域の子育て支援拠点等での啓発の強化に努めていきます。

5 こども・若者、子育て当事者に温かい社会づくりのために

こども会議の意見

子育てしやすい環境づくりについて

- 若者が県外に出ていくことが多いので、こどもを持つ人が新婚夫婦に子育てのコツを教えるなど若者の将来の生活を支える施策があればいい
- 地域ごとに、子育てする親の負担をできるだけ減らすための施設があるといい
- 親同士で気軽に子育ての悩みを相談することができるとうい
- 田舎だからこそできる「人のつながり」を大切に活動を増やしていくといい
- 地域内でこどもの見守りができる状況をつくる必要があると思う

共育について

- 育児休暇は取れる状況にあっても「男性は仕事、女性は家事」という意識が強く根付いているため、男性の育休取得に対する雰囲気を変えていくことが必要だと思う
- 男性と女性で仕事と家事が分けられるという考えを壊し、育児休暇に理解のある環境を作っていくことが必要だと思う

女性活躍について

- 女性が活躍できる場面や働きやすいことをもっと知ってもらいたい



山形県こども・子育て笑顔プランに書いたこと

基本の柱5 推進方策(1) 事業展開① P123

▶ やまがた子育て応援サイトを活用し、夫婦で共に働き、子育てでも仕事も楽しむことができる情報を発信していきます。

基本の柱5 推進方策(3) 事業展開①、② P126

▶ こどもの成長や子育てを社会全体で支援する気運醸成やこどもや子育て家庭に対する応援活動を推進し、県民総ぐるみで子育てを応援する取組みを進めていきます。

基本の柱5 推進方策(5) 事業展開① P134

▶ 安全で快適な子育て環境づくりのため、見守り隊等のこどもの安全・安心確保に向けた地域住民の積極的なボランティア活動の促進を図っていきます。

基本の柱5 推進方策(1) 事業展開① P123

▶ 子育ての負担感が母親に偏ることなく、子育ての孤立感・負担感の軽減を図るため、男性の家事・育児への参画促進や事業主等に対する仕事と家庭の両立支援の意識醸成を図ります。

基本の柱5 推進方策(2) P124

▶ プランに女性の就労・活躍支援について、次のとおり書き、取組みを進めていきます。
「男女共同参画社会を実現するため、女性の能力が十分に活かされる環境づくりを推進します。」